

\*この「姦淫の女」の話を読んでまず、この女性はとんでもない罪を犯して、罰を受けるのは当然だと感じる人が多いのではないだろうか。それはパリサイ人や律法学者と同じである。自分は正しい、律法(聖書)に従って間違っただけはしていない。なのに、この女はどうだ、と自分の満足心や自尊心をもってこの女性を見下してはいなかっただろうか。しかし、この女性がどういう女性なのか、どうして罪を犯してしまったのか知らないままに、ただ律法に書いてあるから死罪だと決めてしまうのは正しいだろうか。「さばいてはいけません。さばかれないためです。」

(マタイ7：1) 私たちは自分の大きな罪を棚にあげて人の小さな罪を非難する愚かな者である。人を真実にさばくことができるのは神おひとりしかおられない。

\*「モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。(ヨハネ8：5～6)

パリサイ人たちが姦淫の女をイエスのところに連れて来た目的は、イエスを訴え、捕らえて告発することであった。律法に背きユダヤ当局に訴えるか、ローマ当局の権力に背くかを見ようというわけである。最初から神の御子キリストを殺害しようという恐ろしい罪を彼ら自身が犯していたのだ。

\*けれども、彼らが問い続けてやめなかったのも、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。(8：7, 9)

石を投げようと思っていた人たちは皆、自分の中にある罪に気付かされたであろう。また、この女も自分の罪に改めて気付かされたはずである。「年長者から始めて」とあるように、罪は年ごとに積み重なっていく。勿論イエスを信じて悔い改めれば恵みもその分増していくのであるが。

\*イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」(8：10～11) 彼らは自分自身の罪に気付かされ、この女を罪に定めることができなかつた。イエスも「罪に定めません」と言われたが、この言葉はこの後、私たちの罪を負って十字架につかれることを考えれば、確実さと重さが違う。イエスこそ本当のさばき主であり、赦す方である。「今からは決して罪を犯してはなりません。」 私たちに語られていることばである。